

【平成16年度専修学校先進的教育研究開発事業】

事業名	個別参加型遠隔グループ演習授業の実証実験		
学校法人名	学校法人 電子開発学園		
学校名	北海道情報専門学校		
代表者	理事長 松尾 泰	担当者・連絡先	関 信仁 011-831-5511

< 事業の概要 >

専修学校に通信制が導入される際に、地理的に離れた場所にいる学習者が、自宅から参加できるグループ演習中心の授業方法の確立に資するために、モデルカリキュラムと教材、動機付け等の遠隔学習者へのメンタリングの仕組み、eラーニングによる演習向け学習システムなどを研究開発し、その有効性について実証実験を行った。

専修学校における教育は実習科目と共に演習科目の比率が高く、通信制導入時にはこれらの科目を遠隔教育形態で実施するための方法論の確立が課題である。本研究開発事業では、グループ演習が中心となるモデル科目を設定し、この科目に関して次の目的の研究開発を行った。

グループ演習科目の遠隔教育用モデルカリキュラムの開発

科目の教材開発

グループ演習のための協調学習用eラーニングシステムの機能要件研究および試作
遠隔学習者に対するメンタリング手法の研究・開発

演習科目の成績評価方法の研究

開発成果に対する実証実験

本実証実験は、当校の関連法人が開発し実運用に供している遠隔教育システム（PINE-NET）を用いた遠隔地での集合型グループ演習授業について、すでに学会で成果などが発表されていることから、それらを用いてeラーニングによる個別参加型グループ演習授業との比較評価、検証を行った。

< 成 果 >

本実証実験の結果、個別参加型遠隔グループ演習授業による学習効果は、従来から本学園で実施している遠隔教育システム（PINE-NET）を用いたグループ演習授業と総体的に同程度以上の学習効果が得られることが明らかになった。また学習者間のコミュニケーションでは、学習者にとって音声と文字が主要な通信手段の要素であること、当初の想定以上に学習者はこれらの手段をうまく操って学習を進めることができること、学習者間のコミュニケーションが学習満足度を高めること、など実に興味深い事象が明らかになった。

さらに演習時のグループリーダーとティーチングアシスタント（講師）の適切なリード

が学習者の円滑な進行と、最終的には学習効果に大きな影響を与えることが判明した。学習の進め方や討議のヒント・方向付けを適切に行えば、学習者満足度と学習効果の両方ともに高い授業が実現できると考えられる。

遠隔形態でのグループ演習と遠隔実習を組み合わせた通信教育課程が実現できれば、通学が難しい地域においても専修学校の実践的教育が自宅で学習が可能となる。さらに、社会人向けの生涯教育やリカレント教育という枠を超えて、正規の教育課程を専修学校でも実現できるという可能性を見出したことに、本実証実験は大きな意味があったと言える。